（４）　ミニトマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 苗立枯病 *Rhizoctonia solani* *Pythium vexans*	1.床土は排水のよい無病のものを使う。 2.苗床の温度管理に注意し、急激な温度変化を避ける。 3.換気をよくし、床土を乾かす。 4.発病株は早急に圃場外へ持ち出し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.播種から定植前までに使用する薬剤は、ラベルに記載されている使用時期や使用方法等を確認すること。 2. 土壌くん蒸の方法はⅢ－１４．土壌病害虫の防除の項参照。 3.播種時～子葉展開時のバシタック水和剤、モンカット水和剤はリゾクトニア属菌に登録がある。	種子消毒	7 7	バシタック水和剤７５ モンカット水和剤
		土壌くん蒸	－ －	ガスター－ド微粒剤 バスアミド微粒剤
		播種時～子葉展開時	7 7	バシタック水和剤７５ モンカット水和剤
2 葉かび病 *Passalora fulva*	1.換気を図り、過湿を防ぐ。 2.密植を避ける。 3.耐病性品種を栽培する。 4.排水を良好にする。 5.発病した茎葉は処分する。 6.被害植物の付いた資材はよく消毒する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ハウス栽培では多発する。 2.発病後の防除は効果があがらず、また、潜伏期間が15～20日もあるので、予防散布に努める。 3.サンヨールはアブラムシ類にも登録がある。 4.トップジンM水和剤、ゲッター水和剤、ルミライト水和剤の含有成分であるチオファネートメチルを含む薬剤を散布する場合は、それらの散布間隔を１か月以上あける。 5.ダコニール1000、アミスターオプティフロアブル、ベジセイバーの含有成分であるＴＰＮを含む薬剤を散布する場合は、収穫７日前までに使用する。また、それらの散布間隔を１か月以上あける。	発病前から	1 1 3 7 7 7 M1 M1 M1 M3 M5 M7 M7 BM2 BM2 BM2 7･M5 10･1 11･M5 27･11 M2･M1 M2･M1 M2･M1 M7･53 NC･M1	トップジンＭ水和剤 ベンレート水和剤 トリフミン水和剤 カンタスドライフロアブル アフェットフロアブル カナメフロアブル クプロシールド ドイツボルドーＡ サンヨール ペンコゼブフロアブル ダコニール１０００ ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル （生）エコショット （生）バチスター水和剤 （生）タフパール （混）ベジセイバー （混）ゲッター水和剤 (混)アミスターオプティフロアブル (混)ホライズンドライフロアブル （混）イデクリーン水和剤 （混）園芸ボルドー (混)クリーンワイドフロアブル (混)フセキワイドフロアブル （混）ジーファイン水和剤
		ハウス内防除（くん煙）	3	トリフミンジェット
3 すすかび病 *Pseudocercospora fuligena*	1.換気を図り、過湿を防ぐ。 2.密植を避ける。 3.排水を良好にする。 4.発病した茎葉は処分する。 5.被害植物の付いた資材はよく消毒する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ダコニール1000、アミスターオプティフロアブル、ベジセイバーの含有成分であるＴＰＮを含む薬剤を散布する場合は、収穫７日前までに使用する。また、それらの散布間隔を１か月以上あける。	定植直後から	3 7 M5 M7 7･M5 10･1 11･M5 M2･M1 M2･M1 M2･M1 M7･53 NC･M1	トリフミン水和剤 アフェットフロアブル ダコニール１０００ ベルクートフロアブル （混）ベジセイバー （混）ニマイバー水和剤 (混)アミスターオプティフロアブル （混）イデクリーン水和剤 （混）園芸ボルドー (混)クリーンワイドフロアブル (混)フセキワイドフロアブル （混）ジーファイン水和剤
		発病初期	11 M3	ファンタジスタ顆粒水和剤 ペンコゼブフロアブル
4 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.換気を図り、多湿を防ぐ。 2.密植を避ける。 3.病果、病葉は早く摘除し、処分する。 4.ハウス栽培では近紫外線除去フィルムでハウスを被覆する。 5.排水を良好にする。 6.被害植物の付いた資材はよく消毒する。	開花期前から	1 1 2 7 7 7 7 9	トップジンＭ水和剤 ベンレート水和剤 ロブラール水和剤 カンタスドライフロアブル アフェットフロアブル パレード２０フロアブル カナメフロアブル フルピカフロアブル

ミニトマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
4 灰色かび病 *Botrytis cinerea* のつづき	**〈薬剤使用の特記事項〉** 1.サンヨールはアブラムシ類にも登録がある。 2.トップジンM水和剤、ゲッター水和剤の含有成分であるチオファネートメチルを含む剤を散布する場合は、それらの散布間隔を１か月以上あける。 3.ゲッター水和剤はベンゾイミダゾール系薬剤耐性菌に効果がある。 4.ダコニール1000、アミスターオプティフロアブル、ベジセイバーの含有成分であるＴＰＮを含む薬剤を散布する場合は、収穫７日前までに使用する。また、それらの散布間隔を１か月以上あける。 5.本病を対象にフルピカで防除を実施しているところでは、うどんこ病の発生が少ない。	開花期前から	11 12 52 52 M1 M5 M7 M7 BM2 BM2 BM2 NC 7･9 7･M5 10･1 10･1 11･M5	ファンタジスタ顆粒水和剤 セイビアーフロアブル２０ ミギワ１０フロアブル アイーナ２０フロアブル サンヨール ダコニール１０００ ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル (生)エコショット (生)バチスター水和剤 (生)タフパール カリグリーン (混)ピカットフロアブル (混)ベジセイバー (混)ゲッター水和剤 (混)ニマイバー水和剤 (混)アミスターオプティフロアブル
		ハウス内防除 (くん煙)	2 2	ロブラール水和剤 ロブラールくん煙剤
		ハウス内防除 (ダクト内投入)	BM2	(生)バチスター水和剤
5 菌核病 *Sclerotinia* *sclerotiorum*	1.換気を図り、多湿を防ぐ。 2.病果、病茎は早く摘除し、圃場外へ持ち出し、処分する。 3.ハウス栽培では近紫外線除去フィルムでハウスを被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.トップジンM水和剤、ゲッター水和剤の含有成分であるチオファネートメチルを含む薬剤を散布する場合は、それらの散布間隔を１か月以上あける。	開花期前から	1 1 7 7 7 11 52 52 10･1 10･1	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 カンタスドライフロアブル アフェットフロアブル カナメフロアブル スクレアフロアブル ミギワ１０フロアブル アイーナ２０フロアブル (混)ゲッター水和剤 (混)ニマイバー水和剤
		ハウス内防除 (くん煙)	2	ロブラールくん煙剤
6 うどんこ病 *Leveillula taurica* *Pseudoidium* *neolycopersici* *Oidium sp.*	1.窒素肥料の過多は本病の発病を助長する。 2.昼夜の温度差が大きくなると発病が多くなる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.サンヨールはアブラムシ類にも登録がある。 2.ハーモメイト水溶剤は灰色かび病にも登録がある。 3.カリグリーンは葉かび病及び灰色かび病にも登録がある。 4.ダコニール1000、ベジセイバーの含有成分であるＴＰＮを含む薬剤を散布する場合は、収穫７日前までに使用する。また、それらの散布間隔を１か月以上あける。 5.本病を対象にジーファイン水和剤またはパンチョＴＦ顆粒水和剤で防除を実施しているところでは、葉かび病の発生が少ない。	発病初期	3 7 7 7 M1 M5 M7 BM2 NC NC － － 3･U6 9･U13 7･9 7･M5 10･1 M1･M2 M1･M2 M1･NC M2･M1 M7･53	トリフミン水和剤 アフェットフロアブル パレード２０フロアブル カナメフロアブル サンヨール ダコニール１０００ ベルクートフロアブル (生)バチスター水和剤 ハーモメイト水溶剤 カリグリーン エコピタ液剤 サンクリスタル乳剤 (混)パンチョＴＦ顆粒水和剤 (混)ショウチノスケフロアブル (混)ピカットフロアブル (混)ベジセイバー (混)ニマイバー水和剤 (混)イデクリーン水和剤 (混)園芸ボルドー (混)ジーファイン水和剤 (混)クリーンワイドフロアブル (混)フセキワイドフロアブル
7 輪紋病 *Alternaria solani*	1.排水を良好にする。 2.換気、通風を良好に守る。 3.肥切れさせない。 4.被害茎葉は畑に残さず処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ダコニール1000の含有成分であるＴＰＮを含む薬剤を散布する場合は、収穫７日前までに使用する。また、それらの散布間隔を１か月以上あける。	発病初期から	2 M1 M3 M5 24･M1	ロブラール水和剤 Ｚボルドー ペンコゼブフロアブル ダコニール１０００ (混)カスミンボルドー

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

ミニトマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
8 疫病 *Phytophthora infestans*	1.高うねにして排水を良好にする。 2.敷わらなどをして雨のはねかえりを防ぐ。 3.空気湿度96%以下になると、発病が抑制される。 4.病果、病茎は早く摘除し、圃場外へ持ち出し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.抑制栽培で発病が多いので、雨の多いときは十分防除する。 2.苗床で発生することがあるので、数回予防的に散布する。 3.ダコニール1000、アミスターオプティフロアブル、ベジセイバー、フォリオゴールド、プロポーズ顆粒水和剤の含有成分であるＴＰＮを含む薬剤を散布する場合は、収穫７日前までに使用する。また、それらの散布間隔を１か月以上あける。	発病前から	21 21 40 40 49 M1 M1 M1 M1 M1 M3 M5 4･M5 7･M5 11･M5 27･11 27･40 40･M1 40･M5 45･40 M2･M1 M2･M1 M2･M1 NC･M1	ランマンフロアブル ライメイフロアブル フェスティバル水和剤 レーバスフロアブル ゾーベックエンテクタＳＥ ドイツボルドーＡ Ｚボルドー コサイド３０００ ムッシュボルドーＤＦ ＩＣボルドー６６Ｄ クプロシールド ペンコゼブフロアブル ダコニール１０００ (混)フォリオゴールド (混)ベジセイバー (混)アミスターオプティフロアブル (混)ホライズンドライフロアブル (混)ベトファイター顆粒水和剤 (混)フェスティバルＣ水和剤 (混)プロポーズ顆粒水和剤 (混)ザンプロＤＭフロアブル (混)イデクリーン水和剤 (混)園芸ボルドー (混)クリーンワイドフロアブル (混)ジーファイン水和剤
9 斑点病 *Stemphylium lycopersici* *S.solani*	1.排水を良好にする。 2.換気、通風を良好にする。 3.密植を避ける。 4.肥切れさせない。 5.被害茎葉は畑に残さず処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ダコニール1000の含有成分であるＴＰＮを含む薬剤を散布する場合は、収穫７日前までに使用する。また、それらの散布間隔を１か月以上あける。	発病初期から	2 7 7 11 11 M1 M5 M7 7･M5 11･M5	ロブラール水和剤 アフェットフロアブル カナメフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 スクレアフロアブル ドイツボルドーＡ ダコニール１０００ ベルクートフロアブル (混)ベジセイバー (混)アミスターオプティフロアブル
10 萎凋病 *Fusarium oxysporum* f.sp.*lycopersici*	1.抵抗性品種(または台木)を利用する。 2.無病用土を利用する。 3.罹病株は早期に除去する。 4.作物残さは圃場外へ持ち出し処分する。 5.未熟堆肥の施用は病原菌の増殖を助けることになるので、完熟堆肥を施用する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.床土及び本田を土壌消毒する。消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2.根腐萎凋病は萎凋病と同一の病原菌である。 3.耐病性品種でも線虫の被害を受けると発病する。	土壌くん蒸	－ － － － － － － －･－ －･－	クロールピクリン ドロクロール クロルピクリン錠剤 クロピクテープ キルパー ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤 (混)ソイリーン (混)ダブルストッパー
11 青枯病 *Ralstonia solanacearum*	1.接木を行う。 2.５～６年の輪作を行う。 3.有機質肥料を施用する。 4.敷わらをして地温の上昇を防ぐ。 5.発病株は見つけしだい除去し圃場外へ持ち出し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.床土及び本田を土壌消毒する。消毒方法はⅢ－14.土壌病害虫の防除の項参照。 2.多発した場合は接木と土壌消毒を併用する。	土壌くん蒸	－ － － － －	クロールピクリン ドロクロール クロルピクリン錠剤 ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤
12 かいよう病 *Clavibacter michiganensis* subsp. *michiganensis*	1.４か年間以上輪作をする。 2.発病株は見つけしだい抜き取り、処分する。 3.芽かぎ、摘心は晴天時に行う。 4.窒素質肥料の過用を避け、排水を良好にする。 5.種子消毒として温湯（54℃）に20分間浸漬する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.カスミンボルドーはアルカリ性薬剤、チオファネートメチル剤との混用はしない。 2.カスミンボルドーは、軟腐病にも登録がある。	本圃	24･M1	(混)カスミンボルドー

ミニトマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
13 斑点細菌病 *Xanthomonas vesicatoria*	1.発病した茎葉は集めて処分する。 2.排水を良好にする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.カスミンボルドー、カッパーシン水和剤はアルカリ性薬剤、チオファネートメチル剤との混用はしない。 2.カスミンボルドー、カッパーシン水和剤は軟腐病にも登録がある。	発病初期	M1 24･M1 24･M1	コサイド３０００ (混)カスミンボルドー (混)カッパーシン水和剤
14 尻腐病 （石灰欠乏症）	1.土の乾きすぎ、湿りすぎを防ぐ。 2.窒素質肥料を施しすぎないようにする。 3.石灰を十分に施用しておく。 4.塩化石灰（塩化カルシウム）またはスイカルを各花房の開花初期ごとに花房、新葉、生長点によくかかるように葉面散布する。 5.アグリメイトを各花房の開花初期ごとに花房、新葉、生長点によくかかるように葉面散布する。			
15 アブラムシ類 （モザイク病 TMV CMV PVX）	1.発病株の芽かぎ、その他の手入れは最後にする。 2.抑制栽培では防虫ネット（１㎜目合以下）被覆による育苗を行う。 3.耐病性品種を栽培する。 4.CMV、PVYはアブラムシ類で伝染するのでシルバーマルチをする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ベネビアODはアゾキシストロビンを含む農薬と混用すると薬害を生じるおそれがあるので混用しない。 2.アゾキシストロビンを含む農薬を散布後ベネビアODを散布する場合には、薬害を回避するため散布後２週間以上間隔をあける。	鉢上時～育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28 28 4A･28	ベリマークSC ヨーバルフロアブル (混)アベイル粒剤
		育苗期後半又は定植時	4A	ベストガード粒剤
		定植時	4A 4A 4A 4A 4A	アドマイヤー１粒剤 モスピラン粒剤 ダントツ粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		発生初期	3A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4C 9B 9B 23 28 29 － －	アディオン乳剤 アドマイヤー顆粒水和剤 アドマイヤーフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 ベストガード水溶剤 バリアード顆粒水和剤 ダントツ粒剤 ダントツ水溶剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤 トランスフォームフロアブル チェス顆粒水和剤 コルト顆粒水和剤 モベントフロアブル ベネビアOD ウララDF エコピタ液剤 サフオイル乳剤
16 ネキリムシ類	1.植付け予定圃場では除草に努める。 2.育苗床は、雑草の繁茂していないところに設ける。	定植時	1B	カルホス粉剤
		生育初期	3A	ガードベイトA
17 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）等で被覆すれば､飛来､産卵を防止できる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発育が進むと薬剤の効果が極端に落ちるので早めの防除を心がける。 2.防除した後も成虫が飛来産卵するので、常に幼虫の発生に注意する。 3.本虫対象にアタブロンで防除を実施しているところでは、コナジラミ類の発生が少ない。	育苗期	15 28･4A	カウンター乳剤 (混)ミネクトデュオ粒剤
		若齢幼虫期	5 11A 11A 11A 11A 11A 15 15 15 22B 28 28 UN	ディアナSC ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 フローバックDF エコマスターBT サブリナフロアブル ノーモルト乳剤 マッチ乳剤 アタブロン乳剤 アクセルフロアブル フェニックス顆粒水和剤 ヨーバルフロアブル プレオフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

ミニトマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
18 シロイチモジヨトウ	1.ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）等で被覆すれば､飛来､産卵を防止できる。	発生初期	UN	プレオフロアブル
19 オオタバコガ	1.ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下） 等で被覆すれば､飛来､産卵を防止できる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発育が進むと薬剤の効果が極端に落ちるので早めの防除を心がける。 2.防除した後も成虫が飛来産卵するので、常に幼虫の発生に注意する。 3.ベネビアＯＤはアゾキシストロビンを含む農薬と混用すると薬害を生じるおそれがあるので混用しない。 4.アゾキシストロビンを含む農薬を散布後ベネビアＯＤを散布する場合には、薬害を回避するため散布後２週間以上間隔をあける。	育苗期	15	カウンター乳剤
		若齢幼虫期	3A	アーデント水和剤
			5	スピノエース顆粒水和剤
			5	ディアナＳＣ
			6	アファーム乳剤
			11A	トアローフロアブルＣＴ
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクＤＦ
			11A	フローバックＤＦ
			11A	エコマスターＢＴ
			11A	サブリナフロアブル
			11A	ジャックポット顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			15	マッチ乳剤
			15	カスケード乳剤
			15	アタブロン乳剤
			18	マトリックフロアブル
			22B	アクセルフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	プレバソンフロアブル５
			28	ヨーバルフロアブル
			28	ベネビアＯＤ
			UN	プレオフロアブル
			6･15	(混)アファームエクセラ顆粒水和剤
			ー･5	(混)ダブルシューターＳＥ
20 トマトキバガ	1.圃場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。 2.被害葉や被害果実は圃場に放置せず、速やかに土中に深く埋没するか、ビニル袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.防除した後も常に幼虫の発生に注意する。	発生初期	13	コテツフロアブル
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			ー･5	(混)ダブルシューターＳＥ
21 コナジラミ類 22 オンシツコナジラミ 23 タバココナジラミ類 （シルバーリーフコナジラミを含む） （トマト黄化葉巻病 ＴＹＬＣＶ）	1.施設栽培では苗による持込みに注意する。 2.ハウス開口部に防虫ネット（0.4㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を防止する。 3.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 4.被害植物や雑草は除去後、土中に埋没するか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 5.夏期には、栽培終了後ハウスを密閉して高温に保ち、熱殺する。 6.侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。	鉢上げ時～育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		鉢上げ時又は定植時	4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
		育苗期	15	カウンター乳剤
		育苗期後半～定植当日	28	ベリマークＳＣ
			28	ヨーバルフロアブル
		育苗期又は定植時	4A	ダントツ粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		育苗期後半又は定植時	4A	アドマイヤー１粒剤
			4A	ベストガード粒剤
			4A	アクタラ粒剤５
		定植時	4A	モスピラン粒剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

ミニトマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
21 コナジラミ類 22 オンシツコナジラミ 23 タバココナジラミ類 （シルバーリーフコナジラミを含む） （トマト黄化葉巻病 TYLCV） のつづき	【トマト黄化葉巻病対策】 1.発病株は抜き取り、ビニール袋等に入れ、枯れるまで密封する。 2.圃場周辺に野良ばえのトマトやミニトマトを生やさない。 3.葉かぎした葉はビニール袋等に入れて密封し、蛹が成虫にならないようにする。 4.購入苗を定植するまでの間、野外に放置せず、防虫ネット（0.4mm目合以下）で覆う。 5.シルバーリーフコナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス（ＴＹＬＣＶ）を伝搬するので注意する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ベネビアＯＤはアゾキシストロビンを含む農薬と混用すると薬害を生じるおそれがあるので混用しない。 2.アゾキシストロビンを含む農薬を散布後ベネビアＯＤを散布する場合には、薬害を回避するため散布後２週間以上間隔をあける。	発生初期	4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4C 5 6 9B 9B 15 15 23 28 29 UNF UNF － － － － －・5	アドマイヤー顆粒水和剤 アドマイヤーフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 ベストガード水溶剤 バリアード顆粒水和剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 トランスフォームフロアブル ディアナＳＣ コロマイト乳剤 チェス顆粒水和剤 コルト顆粒水和剤 ノーモルト乳剤 マッチ乳剤 モベントフロアブル ベネビアＯＤ ウララＤＦ （生）ボタニガード水和剤 （生）ボタニガードＥＳ サンヨール サンクリスタル乳剤 エコピタ液剤 サフオイル乳剤 （混）ダブルシューターＳＥ
		ハウス内防除	4A UNF	モスピランジェット （生）ボタニガード水和剤
24 ハモグリバエ類 25 マメハモグリバエ 26 トマトハモグリバエ	1.外部から苗を導入する際には虫の有無に注意する。 2.ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を防止する。 3.マルチ栽培は土中での蛹化防止に有効である。 4.被害植物や雑草は除去後に土中に埋没するか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 5.改植時には土壌消毒を行い、蛹を死滅させるか、次回の作付まで20日程度おいて、羽化してきた成虫を餓死させる。 6.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7.侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 8.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムにより全面被覆し（夏場の晴天日であれれば１日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.カスケード乳剤はマメハモグリバエとトマトハモグリバエの登録である。 2.本虫を対象にスピノエースで防除を実施しているところでは、コナジラミ類の発生が少ない。	鉢上時～育苗期後半～	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		育苗期	4A 4A	アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		育苗期後半～定植当日	28 28 28 4A･28	プレバソンフロアブル５ ベリマークＳＣ ヨーバルフロアブル （混）アベイル粒剤
		定植時	4A 4A 4A 4A 4A	アクタラ粒剤５ アルバリン粒剤 スタークル粒剤 ダントツ粒剤 ベストガード粒剤
		発生初期	4A 5 5 6 6 6 15 17 28 28 UN 6･15 －・5	ダントツ水溶剤 スピノエース顆粒水和剤 ディアナＳＣ コロマイト乳剤 アニキ乳剤 アファーム乳剤 カスケード乳剤 トリガード液剤 ヨーバルフロアブル プレバソンフロアブル５ プレオフロアブル (混)アファームエクセラ顆粒水和剤 （混）ダブルシューターＳＥ
27 ハダニ類	1.苗で本圃に持ち込まない。 2.圃場内や周辺の雑草防除を徹底する。 3.作物残さを放置すれば、ハダニ類の増殖源となるので、早めに処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.サンヨールはアブラムシ類にも登録がある。	発生初期	－ 20D － －・5	サンヨール マイトコーネフロアブル サフオイル乳剤 （混）ダブルシューターＳＥ

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

ミニトマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
28 トマトサビダニ	1.圃場内や周辺雑草は作付け前に除草する。 2.収穫残さは速やかに処分する。 3.管理作業時に衣服に付着して広がることがあるので、被害株の管理は最後に行う。	発生初期	4C	トランスフォームフロアブル
			6	アファーム乳剤
			6	コロマイト乳剤
			13	コテツフロアブル
			15	マッチ乳剤
			20D	マイトコーネフロアブル
			23	モベントフロアブル
			UN	イオウフロアブル
			ー	サンクリスタル乳剤
			ー	サフオイル乳剤
			-・UN	(混)園芸ボルドー
			UN・ー	(混)クリーンワイドフロアブル
29 アザミウマ類	1.苗で本圃に持ち込まない。 2.ハウス開口部に防虫ネット（1㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3.被害植物や雑草は除去後、土中に埋没するか、ビニール等で密封して半月程度放置する。 4.侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 5.周辺雑草及びハウス内の雑草処理を徹底する。 6.ミカンキイロアザミウマはトマト黄化えそウイルス（ＴＳＷＶ）を伝搬するので注意する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ベネビアＯＤはアゾキシストロビンを含む農薬と混用すると薬害を生じるおそれがあるので混用しない。 2.アゾキシストロビンを含む農薬を散布後ベネビアＯＤを散布する場合には、薬害を回避するため散布後２週間以上間隔をあける。	鉢上時～育苗期後半	28・4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	ベリマークＳＣ
		発生初期	4A	ベストガード水溶剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			5	スピノエース顆粒水和剤
			5	ディアナＳＣ
			15	マッチ乳剤
			23	モベントフロアブル
			28	ベネビアＯＤ
			ー・5	(混)ダブルシューターＳＥ
30 ミカンキイロアザミウマ		発生初期	3A	アーデント水和剤
			15	マッチ乳剤
			15	カスケード乳剤
			13	コテツフロアブル
			29	ウララＤＦ
31 カメムシ類	1.ハウス開口部を防虫ネット（1㎜目合以下）で被覆すれば、飛来を軽減できる	発生初期	4A	スタークル顆粒水溶剤
32 ネコブセンチュウ	1.抵抗性品種（または台木）を利用する。 2.水田への転換可能なところでは、１～２年畑を水田化する。 3.苗からの持ち込みを防止するため、センチュウ類や病害のおそれのない用土を使用する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.クロピクテープ、キルパー、バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤、ネマトリンエース粒剤、ネマキック粒剤、ガードホープ液剤はネコブセンチュウに登録がある。 2.ソイリーン、ダブルストッパー、バイデートＬ粒剤は、ネコブセンチュウとネグサレセンチュウに登録がある。	土壌くん蒸	8B	クロールピクリン
			8B	ドロクロール
			8B	クロルピクリン錠剤
			8B	クロピクテープ
			8F	キルパー
			8F	ガスタード微粒剤
			8F	バスアミド微粒剤
			8A・8F	(混)ディ・トラペックス油剤
			8A・8B	(混)ソイリーン
			8A・8B	(混)ダブルストッパー
		定植前	1A	バイデートＬ粒剤
			1B	ネマトリンエース粒剤
			1B	ネマキック粒剤
		発生初期	1B	ガードホープ液剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する